

崇化館地区（第2回）

【開催日時】 平成26年 7月 29日（火）
18:30～20:30

【開催場所】 豊田市生涯学習センター 崇化館交流館
2F 大会議室

【参加者】

区分	内 訳	人 数
地区住民	自治区長・役員等	5名
	民生児童委員	5名
	コミュニティ会議	2名
	老人クラブ会員	7名
	地域包括支援センター	1名
	地元交流館職員	2名
小 計 (①)		22名
事務局	地域福祉活動計画策定委員	2名
	社協職員等	7名
小 計 (②)		9名
総 合 計 (①+②)		31名

【理想のまち像（キャッチフレーズ）の提案】

『24時間“ありがとう”でつながり
近隣同士が支え合えるまち 崇化館』



【懇談での意見】 3班に分かれて懇談する

	(3) 私たちが住んでいる“まち”が こんな“まち”になったらいいな	(4) 前(3)を実現するために、 地域に住む私たちだからこそできること
1班	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなが「まち」を知っているまち <ul style="list-style-type: none"> ・地域によって特色があるので、早く地域を知ることが必要 ●あたたかいまち <ul style="list-style-type: none"> ・他見から転入してもあたたかく迎えてくれるまち ・支えあえるまちづくり ・近隣の人達との繋がりを大切に生活できるまち ●安心・安全で見守りができるまち <ul style="list-style-type: none"> ・安心して住めるまち（戸締りをしなくてもよいくらい） ・声を掛けあえる関係ができる役に立とうとする人が多い ・高齢者・弱者・子どもが安全・安心に暮らせる・行動できる地域 ・病気や障がいを抱えている方を優しく見守ることができる ・高齢者になっても安心して暮らすことができるまち ●福祉が充実しているまち <ul style="list-style-type: none"> ・福祉計画の充実と住環境の整備されたまちづくり ●ルールが守れるまち <ul style="list-style-type: none"> ・ルールが守られ、他の人に迷惑をかけないまち 	<p>（自分としてできること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●近所とのコミュニケーションをとる（声掛けなど。行事参加を通じて） ●困っているか気づけるようにアンテナを振る ●ゴミ処理をする上で、当番表により環境整備を図る ●奉仕の心を持ち、社会に貢献しようとする ●病気や障がいを理解できるように勉強する ●地域や自治区ごとに意見交換を図り、まとめていく <p>（地域としておこなっていきべきこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●あいさつからはじめよう ●近所と交流できる機会があるとよい（地区に引っ越してくる方との交流がない。子どもが学校に通う年代を越えると、特になくなる） ●他見から来られた方や、地域との交流が希薄な方を気に掛ける（何気ないあいさつ、行司へのお誘いなど） ●各地域の役員・委員の意識を高め、地域全体の協力体制を作る ●分かり合えるまちづくり ●人それぞれの違いを認め、優しく接することができる地域にする ●老人クラブに進んで参加 ●地域行事に積極的に参加
2班	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者に優しいまち <ul style="list-style-type: none"> ・老後において、自治区の住民がいつも気にしてくれるまち ・在宅介護や老老介護世帯であっても、ご近所同士で小さなことでも助け合え、気軽に付き合えるまち ●縦・横の繋がりがあまるまち <ul style="list-style-type: none"> ・情報がいち早く伝わり、問題の最小化ができるまち ●隣近所で支え合えるまち <ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の人と顔見知りになるまち ・近隣との会話ができるまち ・みんなで子ども・老人を見守れるまち ・住んでいる人の顔と名前が分かるまち ●24時間見守れるまち <ul style="list-style-type: none"> ・元看護師など、何かスキルを持った人が登録されるような人材バンクのようなものを作って、24時間見守る ●安心・安全な環境のまち <ul style="list-style-type: none"> ・安眠できるまち（夜中の騒音、バイク、道路でのおしゃべり） ・交通事故が少なく、安心安全に出歩けるまち（道路） 	<p>（自分としてできること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもの登下校の見守り ●老人への声掛け（認知症の発見） ●いつでも・誰にでもあいさつをする ●行事に誘う。自分も参加する ●参加した行事や知り合った人の困りごとを助ける ●回覧で回すのではなく、一軒一軒回って、顔を見て話をする <p>（地域としておこなっていきべきこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●誰にでも声を掛けあえる ●人材づくり ●親子で、他の人も参加できる簡単な行事で世代交流 ●自治区の行事で人の繋がりを作っていく ●組単位の行事を積極的に行う ●自治区の取り組みを住民に伝える ●隣近所のいざという時の関係づくり ●世代を越えて集まれるサロンの場づくり ●災害時に、弱者援護ボランティアとして、中学生を組織として参加させることができないか
3班	<ul style="list-style-type: none"> ●人と人との繋がりが <ul style="list-style-type: none"> ・豊田市内外から人を呼び込める、魅力のあるまち ・隣近所の人同士の顔が繋がるまち ・「わ」のあるまち ・高齢で弱った人や障がい者でも隔てなく付き合う人が多いまち ・一人暮らしでも、寂しいと感じず、安心して暮らせるまち ●人が集う場所 <ul style="list-style-type: none"> ・交通弱者がいつでも安心して休憩できる憩いの場 ・地域の中に、一緒に遊んだり、経験を語り合えたり、相談できる人がいるようなまち ・障がい者・老人・子ども等が区別なく集うことができる場（サロン） ●思いやりのあるまち <ul style="list-style-type: none"> ・嫌がらずに率先して世話役や幹事役を勤める人が多いまち ・困っている人が「困っている」と声を発することができる ・体が弱った近所の人がいれば、ゴミ出しを手伝う人がいる 	<p>（自分としてできること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●隣近所の人にあいさつ・声掛けをする ●おせっかいおばさんになる ●困りごと・心配ごとの話し相手になる ●自治区の行事に積極的に参加する ●地域の集まりへの参加を呼びかける ●井戸端会議を開く ●他人のために何かをする時に「なぜ自分が……」と思いがちだが、自分にムチ打って行動する ●ひとり暮らし高齢者の定期的な見守り ●自分の家を、気軽に集えるように開放する（憩いの家は、地域住民には安価で開放している） ●自分の住んでいる地域をきれいにする <p>（地域としておこなっていきべきこと）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●商店街の空き店舗対策として、高齢者やひとり暮らしの方の憩いの場とする ●地区の役員を育てる ●規則を立案・実施する ●伝統文化の継承 ●人と車が仲良くできるまち ●社協のことを住民がもっと知るように、積極的にPRしていく ●お互いが関わっていくことに必要な個人情報、必要最低限のレベルで公表することも考える

【私たちの地域が目指すべき理想のまち像】・・・地区のキャッチフレーズ・キーワードを提案する

- [1班] 「みんながつながり、やさしく支えあうまち 崇化館」
- [2班] 「組」「24時間」「簡単なことで」「マンションの人」「顔見知り」「人材」
- [3班] 「感謝の心を持って“ありがとう”と言える街」